

開催の概要

1 森林組合トップセミナー・森林再生基金事業発表会について

森林組合トップセミナー・森林再生基金事業発表会は、荒廃した森林の再生にかかる取組事例を世の中に広く紹介すること等を目的に、全国森林組合連合会と共催で開催している、森林組合系統における最大級のイベントです。

第11回目の開催となる今回は「公益信託 農林中金森林再生基金^{※1}（農中森力基金）^{もりちから}」の第2回助成先である5組合より、事業成果等について発表いたします。

また、事業発表会に加え、基調講演・特別講演も行います。基調講演では、都市における木材利用の社会実験を通じて、森林と都市が抱える問題解決に貢献する「都市の木質化プロジェクト」メンバーである山崎 真理子先生（名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授）、特別講演では、人と経営のあるべき姿を探求し、企業はもとより医療機関、自治体、教育関連団体でも多数のご講演実績がある大久保 寛司先生（人と経営研究所 所長）にご講演いただく予定です。

※1「公益信託 農林中金森林再生基金」は、荒廃した森林が、地球温暖化防止をはじめとした多面的機能を十分に発揮できない状況を踏まえ、民有林の再生事業に対して助成を行うことで、森林の多面的機能が持続的に発揮されることを目的とした公益信託です。本基金は、平成17年度から「FRONT80」として、平成26年度から後継基金である「農中森力基金」となり、民有林再生の取組を支援しています。

2 主なプログラム

7月27日(木)	
13時30分	主催者・来賓あいさつ
14時00分	報告事項 (報告者) 高垣 建志 (農林中央金庫 森林担当部長) (テーマ) 「ウッドソリューション・ネットワーク ^{※2} の取組について」
14時30分	基調講演 (講師) 山崎 真理子先生 (名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授) (テーマ) 「森と街を繋ぐ都市の木質化プロジェクト ー市民が主人公の街なか木質化ー」
16時20分	森林再生基金（農中森力基金）第2回事業発表会（前半）
17時45分	閉会

7月28日(金)	
9時00分	森林再生基金（農中森力基金）第2回事業発表会（後半）
10時30分	特別講演 （講師）大久保 寛司先生（人と経営研究所 所長） （テーマ）「自分が変われば組織も変わる」
12時00分	閉会

※2「ウッドソリューション・ネットワーク」は、昨年10月に、東京大学に寄付研究部門を開設したことと併せ、森林・林業・木材産業の一層の発展を願う関連企業等が参画する任意団体として設立されました。山で木を伐採する生産者団体の代表や、木の加工・流通に従事する製材会社・商社、木を利用するハウスメーカー等の木に関わる26の関連企業等で構成されています。川上・川中・川下のウッドバリューチェーン全体を俯瞰し、各工程における様々な課題を解決していくことを通じて、国産材を主体に木材利用の拡大を目指しております。

以 上

森林再生基金（農中森力基金）第2回助成事業の概要等

助成対象先	事業の概要と評価のポイント
しらかみ 白神森林組合 （秋田県） 対象地面積 39ha	事業名： “国の宝「秋田杉」の復権を目指して” ～ 放置林を解消し、秋田杉の聳え立つ森林を復活させる ～ 当事業地は、秋田杉の生産が盛んな地域にある。住民たちは周辺国有林に林立する天然秋田杉の姿を夢見て、入会林野整備で得た土地に自らが植栽し育ててきたが、木材価格の下落等から放置しがちになってきている。 当事業では、採算性がないと諦めかけている森林所有者と協議を重ねながら、正確な森林現況把握を基に将来予想により導き出した目標林型を設定し、高性能林業機械を活用した間伐を実施することにより、放置林の公益的機能、経済的価値の復活を目指すという取組みが評価された。
かねやままち 金山町森林組合 （山形県） 対象地面積 200ha	事業名： 持続可能な森林のカスケード利用に向けた地域作業システム構築モデル事業 当組合は、県内に計画されている大型集成材工場や木質バイオマス発電所等新たな木材需要に向け、地域材を安定的に供給していくため、今まで以上に適正な森林整備と効率的な木材生産体制の構築に取り組んでいる。 当事業では、平成27年度に実施した航空レーザー計測による森林・地形データや予測出材量等を活用し、地域の特性に応じた施業・作業システムにより荒廃が懸念される森林を再生するとともに、森林のカスケード利用をとおして持続可能な木材の安定供給体制の構築を目指すという取組みが評価された。
なすみなみ 那須南森林組合 （栃木県） 対象地面積 131ha	事業名： ホイール型搬出機械を使用した低コスト森林施業モデル事業 当地域は、8齢級以上の人工林が多く、積極的に木材生産を行わなければならない地域であるが、地形の特性上、路網開設コストが高い上に、路網延長が長くなるためこれらの基盤整備が行われず、森林の荒廃が進んでいる。 当事業では、岩盤の出る地質の特性を利用し、トラックも走行可能な丈夫な作業道を開設し、山土場を経由せず直接バイオマス発電所に木材を搬入するシステムの構築と、搬出距離の長い現場での速度の速いホイール型搬出機械を用いた低コスト作業システムの構築を目指すという取組みが評価された。
きたつる 北都留森林組合 （山梨県） 対象地面積 180ha	事業名： 多摩川・相模川流域における森林資源の循環活用モデル事業 当組合は、「植える⇒育てる⇒使う⇒植える」という森林資源の循環利用を推進するため、高齢級化が進む林分の搬出間伐と小面積皆伐を組み合わせた効率的な施業について検証し、その技術習得を目指している。 当事業では、当管内に見られる急峻な地形でも壊れない地域の特性に応じた工法を導入した森林作業道を作設し、車両系による搬出と架線系の集材を上手に組み合わせた低コストで効率的かつ広範囲から集材できる新たな搬出作業システムの構築を目指すという取組みが評価された。

助成対象先	事業の概要と評価のポイント
<p data-bbox="188 277 411 353">くま中央森林組合 (熊本県)</p> <p data-bbox="188 454 491 488">対象地面積 190ha</p>	<p data-bbox="523 232 1313 266">事業名： 高精度な森林情報に基づく ICT 林業推進モデル事業</p> <p data-bbox="523 277 1505 398">当組合では、航空レーザー計測による高精度森林情報の取得とその活用により、精度の高い施業プランの提案を行い、森林組合が主体となった長期的視点での伐採と植栽による持続可能な森林経営の確立を目指している。</p> <p data-bbox="523 409 1505 577">当事業では、平成 27 年度に実施した航空レーザー計測情報を基に、的確な間伐と路網整備を行うとともに、予測した間伐出材量の検証および需要に応じた木材の有利販売の確保、荒廃状況に応じた保育間伐を行うことにより、計画的な木材供給と森林整備の両立を目指すという取組みが評価された。</p>

以上